

2016大分トリニータ サポーターとクラブとの意見交換会 内容①

- 日時 2016年6月3日（金） 19：00～20：30
 - 会場 大分銀行ドーム 地下1階 406会議室
 - 参加者 株式会社大分フットボールクラブ 代表取締役 榎徹
株式会社大分フットボールクラブ 強化部長 西山哲平
-

司会 本日はお忙しいなか、お集まりいただき誠にありがとうございます。
はじめに、榎よりご説明をさせていただきます。

榎 こんにちは。大分フットボールクラブ代表の榎でございます。
今日は、私と西山が説明したあと皆さんからのご意見、ご質問等をいただきたいと思いますと思っており
ますので宜しくお願いします。
金曜日の夜ということで、しかも日本代表戦があるということを実は失念しておりまして、空
いている場所と時間だけで探してしまいまして、この場を借りてお詫び申し上げます。
それから、日頃よりクラブを支えてもらっていることに対して厚く御礼申し上げます。
サポーターからの声援が選手の元気になり、選手の背中を押してくれます。本当にありがとう
ございます。
私からは今回の意見交換会の趣旨、それからチームに対する成績等の現状認識とこれからのこ
と、そしてクラブの経営状況と今後について、その三点について説明したいと思っています。
まず意見交換会開催の趣旨でございますけども、これは9戦を終わった時点で意見交換会をや
ろうと考えました。というのも、4勝1分4敗という成績でございまして、この成績は私もまっ
たく満足いくものではありません。おそらくサポーターの皆さまも、相当ストレスが溜まっている
だろうな、またチームやクラブが今後一体どうなるのかということに非常に不安を持っている
のではないかとことを思いまして、今回の開催と考えました。
また、クラブがサポーターとこのように接することで、クラブとサポーターの距離も縮まると
いうこと、また距離を縮める必要があるのではないかと考えたのも一つの理由です。
次に、チームに対する現状認識とこれからのことについてですが、10戦を終わり一つ勝ちが多くな
り、5勝1分4敗の8位という成績でございます。私の中では7勝はしていたなと考えておりま
す。
余談ですけど、アウェイで東京等に行くとトップチームと一緒に帰るともったいないので、も
う一泊して東京のスポンサー回りなどをします。その時にホテルで寝ていると悔しくて夜中に目
が覚めます。こんなことは初めてでした。負けることがこんなに悔しいということを本当にいま
実感しています。
もともと私はサッカーに関しては、長くは見ていますが素人です。したがって十数年トリ
ニータを見ていると言いながら、おそらく見方は皆さんと変わらないのではないかと考えていま
す。本当に詳しい、いわゆる戦力の分析とか戦況の分析というのは、あとに続く西山に任せたい
と思っています。
今シーズンが始まるに際しまして、チームスローガンを「原点回帰」と決めました。これは、
過去の栄光を懐かしむのではなく、新しい歴史を創るという心意気、そしてサポーターをはじめ
トリニータを応援してくださる方々の力を結集してJ2に上がりたい。そういう気持ちを込めた

ものです。

監督はこれに应运、アグレッシブで決して諦めないサッカーをしようと言ってくれました。そして自ら考えるサッカーを目指して練習を重ねシーズンに入りました。

シーズン当初は薄氷の勝利でありましたが、3連勝して勝ち星的には、この上ないスタートを切りました。しかし、若干どっちが勝ってもおかしくないという展開でありましたので、不安があったのは確かであります。ただ、攻撃陣に故障が多く、そして忘れもしない琉球戦です。沖縄はとても暑く、完全に相手の勢いが凄く元気が良くて、走り負けるといふか走らされるという感じになってしまいました。そこで負けて、そのあと引き分けを挟んで3連敗ということになりました。その後、ホームでFC東京U-23に3対0と、結果から見ると非常にいい勝ち方をしました。前半は非常に厳しかったが、後半は良かったと思っています。これで波に乗れるかなと思ったところで、セレッソ大阪U-23に負けて4勝1分4敗と、ここでやはり意見交換をするべきだと考えました。

しかしながら、現在8位でトップとの差は大幅に16、相模原が21の勝点5であります。10試合終わってあと20試合残っております。まだまだ諦めるというのは程遠い、決して追いつかない差ではないと考えています。いろいろな機会ですが、私がトリニータに来た時に何が嫌いかとて諦めるのが嫌いだ、しつこい性格だとマスコミの皆さんの前でも申し上げました。まだまだ諦める時期ではないと思っています。少しでも可能性があればチャレンジしていくという姿勢は最後まで貫きたいと思っています。今シーズンはやはり勝つということが最優先されます。しかしながら同時に若い選手がとても多く、今年、高校を卒業して入った選手が3人、去年が3人います。そういう若い選手が多いので、勝負にこだわると同時に育てていく必要もございいます。若手の成長、底上げというのが求められている、そうしないと来季には繋がらないと考えています。そのためには、まず選手が自ら考えて「いま何をすればいいのか」というのを、しっかり自覚しながらトレーニング、あるいは試合に臨む必要があると思っています。

一方で、フロントとしてトップチームを支えるというのは、これは大きな役目でございますのでいろいろな手を講じる必要があります。例えばミーティングに私が行って檄を飛ばすとか、もっと自信を持てとか、我々は選手を信じているというように安心感を与える。あるいは選手の補強さらには勝利給など、しっかり選手に頑張ってもらおうという体制を作っていかなければならないと思っております。もともとお金のあるクラブではないのですが、お金を使うのは今だと思っておりますので、補強の方をしっかりと考えていきたいと思っております。繰り返しになりますが、現在の成績には決して満足しておりません。しかし諦める段階ではない、そのための対策もしっかり講じていく。あとでもう少し詳しくいいますが、補強の練習生も来ました。あとは監督と選手、スタッフを信じていきたい、私としてはやってくれると信じています。

三点目が、クラブの経営状況と今後についてであります。

新聞発表等でご存知の方も多いかと思いますが、トリニータは再建途中の会社でございまして県民の皆さま、企業、行政の支援もございまして債務超過は解消したもののファンドからの出資を受けております。これを解消しなければ普通の会社ということは、胸を張っていえないと思っています。昨シーズンの決算は2,300万円の黒字でございました。6年連続の黒字ということで、売上げが10億円足らずの会社ということであれば、これは立派な業績ではないかと思っております。決して悲観すべき数字ではないと思っておりますが、経営基盤は決して安定しておりません。支出の方は、職員の給料も含めかなり限界に近いところまで削っておりますので、収入の柱を増やす必要があります。そのためには顧客のニーズをもっともっと我々は把握していかなければいけない。そういった経営努力が必要だと思っております。今シーズンのシーズンパスは予

想以上に買っていただきました。これも皆さんのおかげですが、全体的に見るとやはり観客は右肩下がりともまできませんがジリ貧状態というのが現状でございます。トップチームが勝つとお客さんが増える、しかし負けると大きく減るということの繰り返しでございます。勝負事ですから勝つことは必要です。勝つことを求められますが、それだけではない。やはりチームは最後まで諦めずに走るとか戦う姿勢というのを見せれば、サポーターの方、お客さんも満足してくれるのではないかと、今日は負けたけど本当に良く走っていた、最後までボールを追っていたということであれば、勝ちに越したことはないが少しは満足してくれるのではないかと考えております。一方、我々フロントとしては、選手が頑張るのも大事ですが、勝ち負けにかかわらずお客様に来ていただけるような試合そして、そういうスタジアムを作り上げていくということが必要であると思います。イベントもやっておりますが、今年はいろいろなことを考えながら改善していきたいと考えております。また、観客の皆さんが来てくれるような話題づくり、特にテレビがないので、いろいろなところに選手は行ってもらって、トリニータ少しでも頑張っているなというところを見せたいと考えております。そういう話題づくり、環境づくりというのが必要だと考えています。

1月に就任した時に、どんな会社になりたいかといわれて「小さくても強い会社」にしたい。営業が優れているとか、本当にお客様に満足していただけるとか、そういう会社にしたいということを申し上げました。それが出来ているかといわれると、まだまだ途上であります。これからやるべきことは山ほどあります。逆転はありませんので、一歩ずつ少しずつでもそこに立てるように頑張っていきたいと考えております。

それと、もう一つ絶対にしなくてはいけないことが、大分フットボールクラブの理念ということで「サッカーを通じて大分の活力に貢献する」といっておりますが、これはかなり抽象的な言葉であります。それをどういう形で、あるいは数字で皆さんに見せていけるのかということ、いま真剣に考えているところです。これは近い将来に示されるのではないかと考えています。いろいろなことに目標指標を立てて、それを示しながら今年これまで出来た、今月ここまで出来た、来年はここに行くんだ、ということを示しながら皆さんと一緒に、本当に大分に活力を生むようなクラブになっていければと考えております。もう一つ、チームの理念として「育成型クラブ」というのがありますが、これは西山の方から詳しく説明いたしますので、これについても質問していただければと考えております。私からは以上でございます。ありがとうございました。

司会 続きまして、西山よりご説明をさせていただきます。

西山 こんにちは。強化部長の西山哲平です。

本日はお忙しいなかお集まりいただきましてありがとうございます。また日頃よりご支援いただきまして本当にありがとうございます。

私の方からは、今シーズンのチームの現状分析と今後について説明させていただきます。

まず現状分析ですが、10試合を消化し5勝4敗1分の勝点16ですが、6試合を1クールとして各クール勝点13を目標として取り組んでまいりました。シーズン合計65です。そこから考えますと、目標からちょっと程遠いものに現在はなっていると考えています。その原因としては大きく分けて、まずは決定力不足と怪我人だったと考えています。毎試合、多くの決定機を作ってはいますが、決定力不足に泣かされた試合というのも多かったと考えています。内容が悪い試合でも決定機は作っているので、そこで得点すればゲームの流れというのは変わっていたであろう試合というのも少なくはなったと考えています。また怪我人のところではキャプテンの山岸

をはじめ、得点源としてFWの軸と考えていた三平、伊佐の怪我というのも少なからず影響を及ぼしていたのかなと思っています。そこで怪我人が戻ってくるまで、なんとか勝点を少しでも多く積み上げていきたいというところでしたが、決定機で決めきれないゲーム展開の中で守備が我慢しきれずに失点をし、負けてしまったという試合が多々あったと分析しております。ここは辛抱強く、また我慢強く戦う必要があると思いますし、これはチームとしても共通認識なされていますので改善していくものと思っています。

また戦術的な部分ですが、ここはかなり浸透してきているという状態だと感じます。攻守の切り替えや、球際の意識、走る、また戦うというアグレッシブなサッカーをベースにプラスしてボールを動かしていくというサッカーが浸透してきていると思っています。ボールを動かすというところですが、相手の守備陣形の変化を見て、その空いたスペースを突くというような攻撃がここ数試合で見せることができるのかなと思っています。ただ誤解していただきたいのが、足もとから足もとのパスサッカーを目指している訳ではありません。アグレッシブなサッカーが第一優先にあり、そのうえにボールを動かすといったサッカーを上積みさせていくという観点でチームを作っております。ただ対戦相手によっては、守備のブロックを低く作ってくるチームもあり、相手のDFラインの裏にスペースがないという状況もありますので、縦に速い攻撃ができないということも多々ありました。その時に自陣でボールを繋ぐシーンが多く見られたとは思いますが、その目的としては自陣でボールを動かすことによって相手を食いつかせる。そして、相手が食いついてくるということは逆に言えば相手の背後が空いてくるという考えで、そのスペースを突くという狙いをもってボールを自陣で動かしております。相手を食いつかせて空いたスペースを突くパスをスイッチとして、ギアチェンジをして複数の人数が攻め上がる厚みのある攻撃をしていく。これが、私達がいま目指しているサッカーになります。決して綺麗なパスだけで崩すような、パスサッカーを目指している訳ではないということをご理解いただきたいと思います。

そして怪我人のところですが、三平、伊佐、高松が戻ってきています。そしてコンディションもかなり上がってきている状況ですので、今後の得点力アップというのはイメージを持っております。次に、DFラインの福森、ここ数試合でかなり成長してきていると思っています。彼の成長がDFライン構成のオプションを増やしてくれていると思っています。チーム力自体ここ数試合でかなり向上していると認識しております。チームの雰囲気もいいですし、一体感も感じられます。必ず巻き返しを十分に図れると考えております。幸いJ3リーグは混戦で団子状態になっておりますので、そのような面からも巻き返しを図れると思っています。そして勝点の話ですが、現在首位の相模原が10試合消化して勝点21です。当初65くらいがラインなのかなと思っていましたが、この混戦状況を鑑みて60くらいになるのではないかと予想しています。現在トリニータが勝点16ですので、残り15試合以上勝利するという目標設定をしております。そして上位の相模原、秋田とは2試合直接対決が残っておりますので、そこで勝利するということも非常に重要なポイントになってくると思っています。前述のとおり怪我人が戻ってきましたし、メンバーのコンディションも向上してきて、チームも向上してきているという認識はありますが、より勝点を取っていくということを考えた時に夏の補強も視野には入れております。現在、昨日から外国人の選手が練習参加をしています。彼のプロフィールは、セルビア人の21歳で、イヴァン マルコヴィッチという選手です。彼のポジションはボランチから前、トップ下、FWすべて出来るような選手です。複数のポジションができるということで、かなり面白い選手と思っています。ただ当然、日本のサッカーにフィットするのか、大分トリニータのサッカーにフィットするのかを見極めないといけないと共に、交渉ですのでオファーを出したとしても、それが成立

するかのお約束はできないのは付け加えてお伝えしたいと思っております。

最後になりますけども、中長期ビジョンに関して育成型クラブということを掲げていますが、そこを具体的に説明させていただきます。まず当然J2昇格を目指してJ1定着を一つの大目標と掲げる中で、地方クラブということ、そしてまた責任企業がないクラブということ、そして「大分の活力に貢献する」という観点からも育成は切り離せないと考えています。以前から育成型クラブの代表的な存在になるという目標を掲げていますが、その具体策をご説明させていただきます。まず私共が考える育成ですが、テーマは「育成のスピードを上げる」と考えております。

まず一つに、一つ上のカテゴリーでプレーの経験をさせる。そして二つ目が、プロ入り3年目までの選手の育成。この二つのポイントだと思っています。まず一つ目の、一つ上のカテゴリーでプレーの経験をさせるということは、U-12の優秀な選手であればU-15でプレーさせる。U-15に所属している優秀な選手はU-18でプレーさせる。そしてU-18で優秀な選手はトップでプレーさせる。このように一つ上のカテゴリーでプレーをさせるのは非常に重要だと考えております。例えば具体的に申し上げますと、昨年2種登録として岩田、吉平が一年間トップに帯同しプレーしました。この一年間のアドバンテージは非常に大きいと思っています。それが私共の強みだと思っています。同じ高卒で入ってきた18歳の選手と比べて、この一年間の違いというのは明らかに大きいというのは十分に分かっていますし、明らかにそれを彼ら2人は証明していると思っています。ですから、一つ上のカテゴリーでプレーの場を提供するということは非常に重要だと思っていますので、そういう取組みをしていきたいと思っています。次に、プロ入り3年目までの選手の育成、ここは日本サッカー界の課題でもあります。18～21歳までの年代はなかなかプロに入ってもプレー経験を得られない。練習試合やサテライトリーグ等ではプレー経験が得られないという現状が日本サッカー界にあります。私共のクラブは例えば過去のポポヴィッチ監督の時であれば清武、東。シャムスカ監督の時であれば西川、森重、梅崎、金崎など若い年代から起用されています。そのように若手の育成や、若手の育成に理解のある監督を過去招聘してきていますので、今後も続けていきたいと思っています。実際に、今年も片野坂監督が岩田や吉平を積極的に起用してくれています。そこで彼らはかなりのスピードで成長していると思っています。テーマである「育成のスピードを上げる」の一定の効果が出せていると思っています。また、プロ入り3年目までの選手の育成というところに関しては、二つのポイントがありましてアカデミーとトップチームが連携して将来トップに上がる選手を逆算したトップチームの構成を行っています。例えば今年の高校一年生に良い選手がいたら、二年後にトップに上がります。その時に、その選手のポジションにあえて移籍で選手を獲得しない。そういうやり方というのをやっています。実際、今シーズン岩田がトップに昇格することは事前に分かっていたので、そこに移籍で獲得してかぶせるというようなことはしませんでした。それが一つの育成のスピードアップに繋がるということになっています。次にもう一つ、既存の若手有望選手も伸ばしていかなければいけないと考えています。例えていえば今年の福森、彼のところに山岸という同じポジションの選手を取りましたけども、そこで競わせて福森を成長させるということをやりました。実際ここ数試合で、成長することが出来たのかなと思っています。そのような育成のスピードを上げることは出来ていると思っています。現在、このような取り組みで将来J1に定着できるような力を備えていきたいと考えております。そのためにも今シーズンの戦いが非常に大事になってくると思っています。本当に現場フロントが一丸となって、今後の挽回に全力を尽くしてまいります。皆さんの声援が本当に選手達、私達の力になります。引き続きどうかご支援のほど宜しくお願いします。私の方からは以上です。ありがとうございました。

(内容② 意見交換に続く)